



一般社団法人 日本病理学会
〒113-0034
東京都文京区湯島1-2-5
聖堂前ビル7階
TEL: 03-6206-9070
FAX: 03-6206-9077
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp
http://pathology.or.jp

一般社団法人日本病理学会

第384号

令和2年(2020年)4月号

1. 令和2年度定時社員総会報告

令和2年4月17日(金)開催の令和2年度定時社員総会(富士ソフトアキバプラザ5Fレセプションホール)において、標記の件が以下の通り承認されました。

(1) 平成31/令和元年度収益事業会計収支決算について

正味財産増減計算書(収益事業分)

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)

科 目	収益事業合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	0
特定資産運用益	0
特定資産運用益	0
特定資産受取利息	0
受取会費	0
学術評議員受取会費	0
一般会員受取会費	0
終身会員受取会費	0
病理専門医部会費	0
海外会員年会費	0
事業収益	24,735,379
学術集会収益(展示会収益)	21,261,720
賠償保険事務収益	3,473,659
ゲノム講習会収益	0
受取委託収益	0
受取委託収益	0
受取補助金等	0
受取寄付金	0
受取寄付金	0
雑収益	6,539,715
受取利息	60
雑収益	0
PIロイヤリティ	6,539,655
著作権使用料	0
編集協力費収益	0
日病会誌	0
転載料	0
経常収益計	31,275,094
(2) 経常費用	
事業費	29,633,977
通信運搬費	21,000
消耗品費	86,900
印刷製本費	8,140,000

雑費	31,000
支払手数料	221,864
学術集会会場費	7,235,783
学術集会設営費	5,472,216
学術集会人件費	2,605,091
学術集会業務委託費	1,413,071
学術集会広告費	56,586
学術集会印刷費	1,293,316
学術集会会議費	811,731
学術集会諸費用	2,245,419
管理費	213,608
租税公課	213,608
経常費用計	29,847,585
評価損益等調整前当期経常増減額	1,427,509
評価損益等計	0
当期経常増減額	1,427,509

(2) 名誉会員の推戴について

同定時社員総会において、以下の3名が令和2年度新名誉会員に推戴されました(敬称略・ABC順)。

覚道 健一 松原 修 諸星 利男

(3) 功労会員の推戴について

同定時社員総会において、以下の47名が令和2年度新功労会員に推戴されました(敬称略・ABC順)。

千葉 諭	蛭名 義仁	江口 正信	榎木 登
林 祥剛	堀部 良宗	堀内 隆三	市川 誠
池田 仁	岩渕 三哉	加藤 信介	川口 研二
河村 康司	草間 薫	前倉 俊治	松井 一裕
三木 洋	本告 匡	内藤 善哉	中村 泰行
名方 保夫	中谷 行雄	根本 則道	小笠原一誠
大倉 康男	太田 善夫	坂田 慶太	佐藤いづみ
澤田 達男	渋谷 宏行	島田 修	杉江 茂幸
杉原 洋行	鈴木 高祐	鈴宮 淳司	高橋 雅英
高橋 玲	瀧本 雅文	滝本 寿郎	田丸 淳一
辻本 正彦	植田 初江	若月 進	山川 光徳
米満 伸久	吉田 利通	吉見 直己	

(4) 学術評議員について

同定時社員総会において、以下の27名が令和2年度新学術評議員として承認されました(敬称略・ABC順)。

阿曾 達也	新井 基展	荒木亜寿香	橋本 浩次
橋本 大輝	金山 和樹	笠島 里美	木村 相泰
倉林 睦	倉田 美恵	黒濱 大和	的場 久典

松坂 恵介	松嶋 惇	三浦 史郎	宮居 弘輔
村松 彩	長沼 誠二	大橋 瑠子	力武美保子
佐藤 泰樹	嶋 香織	塩竈 和也	助田 葵
外岡 暁子	内橋 和芳	渡邊 隆弘	

(5) 第 68 回 (令和 4 年度) 秋期特別総会会長について

同定時社員総会において以下候補者が第 68 回 (令和 4 年度) 秋期特別総会会長として承認されました。

菅井 有

(岩手医科大学医学部病理診断学講座)

(6) 第 112 回 (令和 5 年度) 総会会長について

同定時社員総会において以下候補者が第 112 回 (令和 5 年度) 総会会長として承認されました。

池田 栄二

(山口大学大学院医学系研究科医学専攻病理形態学講座)

(7) 令和 2/3 年度役員選任について

標記役員が選任されました。任期は同日から第 111 回定時社員総会 (神戸) 令和 4 年 4 月予定までです。

○理事: 20 名

全国区選出理事／理事長	北川 昌伸
全国区選出理事	小田 義直
全国区選出理事	落合 淳志
全国区選出理事	坂元 亨宇
全国区選出理事	森井 英一
全国区選出理事	田中 伸哉
全国区選出理事	佐々木 毅
全国区選出理事	増田しのぶ
全国区選出理事	鬼島 宏
全国区選出理事	豊國 伸哉
全国区選出理事	都築 豊徳
口腔部会長／理事	清島 保
北海道支部長／理事	鳥越 俊彦
東北支部長／理事	菅井 有
関東支部長／理事	大橋 健一
関東支部選出理事	宇於崎 宏
中部支部長／理事	村田 哲也
近畿支部長／理事	横崎 宏
中国・四国支部長／理事	池田 栄二
九州・沖縄支部長／理事	鍋島 一樹

○監事: 2 名

監事	野口 雅之
監事	笹野 公伸

2. 病理専門医資格更新者氏名

1) 日本病理学会認定病理専門医

更新期間: 2020 年 4 月 1 日から 5 年間 (63 名)

認定番号 姓 名

320	小林 省二	325	神山 隆一
-----	-------	-----	-------

326	桑原 紀之	1760	黒田 雅彦
329	中村 宣生	1763	田島 康夫
331	谷村 晃	1766	大河原 進
339	廣川 勝昱	2101	大谷 紀子
343	小川 勝洋	2102	塚本 哲
365	高山昇二郎	2109	小西 康宏
410	高橋 敦	2113	遠藤 泰志
452	岡村 明治	2115	今井 美和
455	花井 淳	2119	北山 康彦
471	丹下 剛	2145	服部日出雄
481	中島 伸夫	2150	平林 寧子
489	秦 順一	2158	鳥井 郁子
502	小林 庸次	2344	吉田 孝友
509	若狭 治毅	2432	藤本 淳也
514	板橋 正幸	2446	川崎 朋範
515	岩田 隆子	2488	松城 尚憲
516	杉崎 祐一	2494	高桑 徹也
979	関川 進	2500	安川 覚
1186	菊地 文史	2503	小峯 多雅
1188	池田 洋	2569	細田 和貴
1195	吉河 康二	2582	後藤 朋子
1210	越川 卓	2768	内橋 和芳
1453	渡辺 宏志	2773	近藤 譲
1456	仲間 健	2781	伊藤 僚子
1460	佐野 健司	2784	森川 鉄平
1466	石井 恵子	2792	山田 拓司
1472	米原 修治	2793	石原 一葉
1474	神谷 増三	3124	安里 嗣晴
1484	鈴宮 淳司	3136	廣橋 良彦
1491	堀江 靖	3144	浦岡 直礼
1752	久岡 正典		

2) 日本専門医機構認定病理専門医

更新期間: 2020 年 4 月 1 日から 5 年間 (354 名)

認定番号	姓 名		姓 名
322	大脇 祐治	457	松本 一仁
327	早川 欽哉	460	下田 忠和
330	杉原 甫	475	社本 幹博
357	小西二三男	501	原 満
380	町並 陸生	504	豊田 博
400	村上 俊一	1175	入江 宏
409	小池 盛雄	1176	酒田 昭彦
424	円山 英昭	1177	加藤 良平
428	渡辺駿七郎	1178	藤林真理子
431	河合紀生子	1179	九島 巳樹
432	藤田 昌宏	1180	中村 智次
433	辻 浩一	1184	植田 初江
435	眞柄 直郎	1187	岡 輝明
442	須田 耕一	1197	北條 洋
451	吉田 春彦	1198	星 和栄
456	石原 得博	1201	芹澤 博美

1204	吉田 利通	1773	八反田洋一	2114	鈴木 理	2462	堀口 英久
1205	溝口 良順	1774	仙崎 英人	2117	森谷 鈴子	2463	片山 雅貴
1207	松能 久雄	1775	中山 宏文	2118	鈴木 宏明	2464	下山 芳江
1208	斉藤 昌宏	1776	木口 英子	2120	常山 幸一	2465	内山 明央
1209	川野 潔	1777	森下由紀雄	2121	廣瀬 茂道	2466	泉 浩
1446	長沼 廣	1778	岸本 光夫	2122	宇月 美和	2467	原 重雄
1448	茅野 秀一	1780	金井 弥栄	2123	古田 朋子	2468	吉田 康之
1449	上野 浩	1781	山口 佳子	2124	酒井 剛	2469	内田 智久
1450	伏見 博彰	1783	遠藤 泰彦	2125	南口早智子	2470	久野 壽也
1451	五十嵐俊彦	1784	大村 光浩	2126	仲里 巖	2471	榊原 綾子
1455	廣田 誠一	1785	鴨志田敏郎	2128	上田 佳世	2472	近藤 哲夫
1459	細 正博	1786	片岡 寛章	2129	三浦 康宏	2473	桃崎 征也
1461	新井 栄一	1787	黒瀬 顕	2130	田口 順	2474	恩田 宗彦
1463	清水 健	1789	山田 鉄也	2132	嶋田 俊秀	2475	丹羽 秀樹
1464	赤坂 喜清	1790	小坂 裕之	2133	中西 護	2476	小林 大輔
1468	清水 禎彦	1791	矢島 幹久	2135	鈴木 秀郎	2477	遠藤 秀子
1469	本田 一穂	1792	内藤 善哉	2137	重西 邦浩	2478	山元 英崇
1470	佐藤 郁郎	1793	松本 光司	2138	赤松 裕子	2479	倉林 睦
1471	丸山 博司	1794	田中 道雄	2139	緒方 衡	2480	熊木 伸枝
1473	野沢 佳弘	1795	竹田 雅司	2140	蒲池 綾子	2481	辻端亜紀彦
1476	丸山理留敬	1796	前倉 俊治	2141	竿尾 光祐	2482	岡 一雅
1477	新井 富生	1797	降幡 睦夫	2142	岩佐 葉子	2483	卜部 省悟
1478	長坂 徹郎	1798	木村 雅友	2143	藤井 博昭	2484	小沢 広明
1480	安井 弥	1799	内海 康文	2144	今井 裕	2485	峰 真理
1481	新野 史	1800	宍倉 有里	2146	黒田 一	2486	小原 一葉
1482	下釜 達朗	1801	足立 史朗	2148	柳井 広之	2487	金城 貴夫
1486	増田 昭博	1802	真崎 武	2149	高桑 恵美	2489	北村 博司
1487	横瀬 智之	1804	大澤 政彦	2151	高川 清	2490	木下英理子
1488	三宅 敏彦	1805	今井 幸弘	2152	田宮 貞史	2491	相田 久美
1489	佐藤 孝	1806	大慈弥悠子	2154	前沢 千早	2492	小塚 祐司
1492	伊東 正博	1807	楠美 嘉晃	2155	上杉 憲子	2493	橘 充弘
1493	角田 幸雄	1808	佐々木 毅	2156	伊東 恭子	2495	相島 慎一
1495	山根 哲実	1809	鈴木 康彦	2157	松浦 恵子	2496	長田 宏巳
1496	清水 健	2091	黒田 直人	2159	村上 秀樹	2497	関戸 康友
1499	伏木 信次	2092	村田建一郎	2160	加藤 圭	2498	河内 洋
1500	渋谷 和俊	2093	大井 恭代	2161	山崎 滋孝	2499	小林 計太
1753	石澤 貢	2094	金網友木子	2162	外丸 詩野	2501	松本 晃一
1754	黒岩 俊彦	2095	田村 智美	2163	片柳 和義	2502	鈴木 昭
1755	河野 眞司	2096	本田 由美	2448	安岡 弘直	2504	大西 隆仁
1756	中正 恵二	2097	齊藤 啓	2449	小谷 泰一	2505	中澤 匡男
1757	豊國 伸哉	2098	伊藤 浩史	2450	高桑 康成	2506	本庄 原
1758	嵩 眞佐子	2099	羽場 礼次	2452	大城 久	2507	石澤 圭介
1759	加島 健司	2100	今井 康雄	2453	蔵 雅大	2744	田中 弘之
1761	中村 泰行	2103	渡邊 純	2454	吉田 功	2745	藤田 久美
1764	高橋さつき	2104	笹島ゆう子	2455	鈴木 周五	2746	伏見聡一郎
1765	三代川斉之	2105	海崎 泰治	2456	櫻田 潤子	2747	佐藤 朋子
1767	伊藤 眞文	2106	安達 章子	2457	林 紀乃	2748	濱崎 慎
1769	保坂 直樹	2107	田中 伸哉	2458	岡田 勝治	2749	山田 壮亮
1770	野村 浩一	2108	酒々井夏子	2459	塩沢 英輔	2750	大森 泰文
1771	山口 岳彦	2111	小田 義直	2460	藤野 節	2751	星本 和種
1772	藤野 雅彦	2112	井上 輝彦	2461	近藤 武史	2752	村垣 泰光

2753	木村 太一	3075	藤田 泰子	3127	田中麻理子	3135	粕 雄一朗		
2754	藤田 茂樹	3076	中野 麗香	3128	富田 弘之	3137	田村麻衣子		
2755	木澤麻由紀	3077	田尻 亮輔	3129	立石 文子	3138	藤澤 孝志		
2756	飛田 陽	3078	河合亜希子	3130	勝寫 浩紀	3139	正木 彩子		
2757	牧野 睦月	3079	竹治みゆき	3131	長沼 誠二	3140	裴 有安		
2758	菰原 義弘	3080	山田 侑子	3132	新垣 和也	3141	長峯 理子		
2759	米田玄一郎	3081	日比谷孝志	3133	中嶋 隆彦	3142	大郷 恵子		
2760	辻 隆裕	3082	白木 之浩	3134	木脇 圭一	3143	三好 寛明		
2761	豊田 亮彦	3083	服部 行紀	3. 口腔病理専門医資格更新者氏名					
2762	小池 裕人	3084	佐藤 泰樹						
2763	久野 美子	3085	中西ゆう子	更新期間：2020 年 4 月 1 日から 5 年間（29 名）					
2764	石川 典由	3086	阿曾 達也	口腔認定番号 姓 名					
2765	松影 昭一	3087	阿萬 紫	25	武田 泰典	124	田沼 順一		
2766	工藤 和洋	3088	諸橋 聡子	27	山本 浩嗣	125	長塚 仁		
2767	梶浦 大	3089	辻 洋美	29	井上 孝	126	柳下 寿郎		
2769	山本 鉄郎	3090	森田 茂樹	31	山田 勉	127	森 泰昌		
2770	池村 雅子	3091	高松 学	40	賀来 亨	142	矢田 直美		
2771	乳井 美樹	3092	徳安 祐輔	43	田中 陽一	143	佐藤 淳		
2772	武田 広子	3093	山田 裕一	82	松尾 拡	168	伊東 優子		
2774	飯塚 利彦	3094	熊澤 文久	83	窪田 展久	171	橋本 和彦		
2775	小野寺正征	3095	梅本沙代子	98	田中 秀邦	172	常松 貴明		
2776	田中 優子	3096	古谷 未央	102	宇都宮忠彦	173	安原 理佳		
2777	谷川 健	3097	井上 和成	103	豊澤 悟	174	木村 相泰		
2778	村上 善子	3098	西村 瑤子	104	清島 保	175	谷川 真希		
2780	御子神哲也	3099	小川 博久	105	原田 博史	176	中野 敬介		
2782	外岡 暁子	3100	竹本 暁	122	君 賢司	177	齋藤 彰久		
2783	高橋 葉子	3101	齊藤 涼子	123	長谷川直樹	4. 【延期のお知らせ】令和 2 年度病理専門医・口腔病理専門医試験について			
2785	小林実喜子	3102	松岡 圭子	令和 2 年度病理専門医・口腔病理専門医試験は、7 月 25 日（土）、26 日（日）の日程で大阪大学にて開催を予定しておりましたが、今般の新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、延期することといたしました。					
2786	瀧山 晃弘	3103	佐野真理子						
2787	丹藤 創	3104	渡辺 緑子	延期後の日程・会場については、現在検討を進めており、決定次第あらためてご案内いたします。延期後の日程ですが、9 月以降で調整を行います。					
2788	宮永 朋実	3105	大月 聡明						
2789	豊住 康夫	3106	小野 響子	なお、専門医試験の申請締切は「4 月 30 日（木）消印有効」で変更ございません。					
2790	大越 忠和	3107	江角 知香						
2791	米田亜樹子	3108	平木 由佳	本年度の受験を希望される場合は、上記締切までに所定の手続き（申請書類提出、受験料納入）を完了させてください。					
2794	本間 尚子	3109	三宅 暁夫						
2795	飯塚 徳重	3110	小林 博子	また、既に申請書類を提出されていて、延期により取り下げをご希望される方は病理学会事務局までご連絡ください。書類の返却、受験料を返金の手続きを致します。					
2796	大上 直秀	3111	佐藤 啓						
2797	市原 真	3112	力武美保子	受験予定の方、関係者の方には多大なご心配とご迷惑をお掛けし大変申し訳ございませんが、何卒ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。					
2798	関 れいし	3113	宮井 由美						
2799	河合 繁夫	3114	仲山 貴永						
2800	永野 輝明	3115	石橋 康則						
2801	中井真由美	3116	大西威一郎						
2802	田中 健大	3117	鮫島 直樹						
2803	林 伸一	3118	鷺見 公太						
2804	伊藤 崇	3119	藤原 英世						
2806	櫛谷 桂	3120	三浦 泰朗						
2807	桑江 優子	3121	山下 大祐						
3071	岡田 晴香	3122	板倉 裕子						
3072	山田 勢至	3123	齊郷智恵美						
3073	大江倫太郎	3125	中里 宜正						
3074	佐藤 聡子	3126	仲山美沙子						

5. 第66回秋期特別総会（浜松）演題募集開始のご案内

第66回日本病理学会 秋期特別総会の演題募集を開始いたしました。

演題募集締切：2020年6月25日（木）正午

演題募集ページ：<http://www.gakkai.co.jp/jsp66/>

6. 新型コロナウイルス感染等、病理検体取扱いについて

術中迅速病理標本作製・病理診断および病理組織未固定検体、細胞診検体の取り扱いについて
—新型コロナウイルス関連—

術中迅速病理組織標本作製時の検体処理・病理診断および病理組織未固定標本、細胞診検体等の取り扱い及び感染予防策に関しては、これまでも各医療機関等の病理部門におかれましても様々な工夫をされていることと存じますが、日本病理学会としての見解を下記にまとめますので、病理部門あるいは医療機関全体等で共有、ご参考にしていただきますよう周知の程、何卒よろしくお願いいたします。

1) 新型コロナウイルスに感染していないことがPCR検査等で確認された患者の未固定検体に関して

*これまでと同様の感染対策を行って、検体処理等を行うこと。

2) COVID-19患者およびPCR検査未実施患者（全患者対象）の未固定検体に関して

*検体を扱う場合は、個人防護服（キャップを含む）を身につけ、マスクはN95マスクまたはPAPR（Powered Air Purifying Respirators）マスクを着用すること。なお、N95マスクに関しては、厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策推進本部より発出された事務連絡に従って、再利用することも可能である。

http://pathology.or.jp/news/200427_1_20200410.pdf

事務連絡には、滅菌器活用等による再利用に努めること（ただし、3回の再利用でN95マスクの換気能が低下するため、再利用は2回までとすること、必要な場合は有効期限に関わらず利用すること、N95マスクには名前を記載し、交換は1日1回とすること、KN95マスクなどの医療用マスクもN95マスクに相当するものとして取り扱い活用するよう努めること、目に見えて汚れた場合や損傷した場合は廃棄すること、等の記述がある）。

*各種マスクを滅菌せずにビニール袋等に入れて保管の際には、ビニール袋に「外面」「口側面」などの記載を施し、外面と口側面がコンタミネーションしないように工夫を施すことも推奨される。

*気管支肺泡洗浄液、気管支ブラシ、喀痰、胸水、超音波気管支鏡下針生検、肺のコア生検の捺印細胞診標本といったすべての呼吸器検体は、すべてハイリスク検体であることから、取扱いには特に細心の注意を払うこと。

*結膜からの感染防止のため、フェイスシールド付マスク

あるいはゴーグルを着用することが望ましい。

*検体の処理はBiological Safety Cabinet（BSC）Class IIで行うことが望ましい。

*ROSE（Rapid On-Site Evaluation）などの場合も、個人防護服やマスク着用が必須である。この場合の個人防護服やN95マスクは新品、あるいは滅菌後のものを使用することが推奨される（医療者が身に着けた個人防護服やマスクから患者に感染するリスクがある）。

*ROSEの際、立ち会う人員は最小限とすること。なおエアロゾル感染の危険性が伴うことから、当面行わないことも推奨される。

*以上、文献等からは上記の取り扱いになりますが、医療資源が枯渇しつつある現状を鑑みて、各施設で可能な限りの対応をお願いいたします。

*通常の感染対策よりも厳重な感染対策が必要となるため、不急の病理検査症例についてはできる限り検査を回避し、必要不可欠の場合に限り行うなどスケジュール調整等をし、後日、個人防護服など感染対策が可能になった段階で行うことも推奨されます。

*「パンデミック発生状況下における病理検体（組織・細胞）の取り扱い：CAPの指針（日本語訳）」を日本病理学会元理事長 長村義之先生よりご提供いただきました。

こちらをご参照ください。

http://pathology.or.jp/news/200427_2_cap.pdf

ご質問、ご意見等は日本病理学会事務局まで、メールにてお願いいたします。 jsp-admin@umin.ac.jp

大変に恐縮ですが、現在、日本病理学会事務局は政府および東京都の方針に従い、原則テレワークとさせていただいております。電話での対応はお受けいたしかねますので、ご了解の程お願いいたします。

参照HP：

<http://pathology.or.jp/news/iryou-gyoumu/20200427.html>

7. 新型コロナウイルス感染症を含む病理解剖について（2020年4月27日更新）

新型コロナウイルス感染症に関しましては、全国医学部長病院長会議（http://pathology.or.jp/news/20200427_2-2.pdf）より、関係省庁宛てに、「医療崩壊、院内感染予防のため、入院患者全員に対して新型コロナウイルスのPCR検査を保険診療下で行える体制を整備すること」についての声明が提出されました。また、慶応大学病院からは、院内感染防止として入院患者全員にPCR検査を行ったところ、入院患者の約6%に無症候感染者が認められたと報告がありました（4月22日）。

これを受け、厚生労働省は4月24日の中央社会保険医療協議会の総会にて「新型コロナウイルスの院内感染が増えていることに関連し、症状がない入院患者についても、医師が必要と判断した場合にはPCR検査の保険適用を可

能とする」との方針を明らかにしました。ただし、「入院患者全員に一律に実施する場合は対象外とし、近く保険が適用されるケースを整理して提示する」ともされております。

これらのことを鑑み、病理解剖の実施に関しては病理解剖前に新型コロナウイルス感染症のPCR検査を、原則すべての症例で実施することを推奨いたします。

〈追記〉

- * 新型コロナウイルス感染者の約80%はいわゆる無症候感染者であること。また、感染力が強いウイルスであること。
- * 感染した場合、高齢者でも発症しない者がいる反面、数は少ないながら若年、青壮年でも（基礎疾患がないにもかかわらず）症状が重症化し、稀ながら死亡する者もいること（発症者500人に1人が亡くなるともされています）。
- * 病理解剖は基本的には、感染対策に配慮した上で全症例行っておりますが、例えば結核に関しても、他の診療科の医療従事者に比較して病理部門の医療従事者は10倍以上の高い感染率であること。
- * 新型コロナウイルス感染症解剖に対しての感染予防策（国立感染症研究所から発出された感染予防策・マニュアル：会員専用ページに掲載）に対応している病理解剖室を有する医療機関は全国的に数カ所しかないこと。
- * 通常の感染対策で病理解剖を行った患者が無症候性の新型コロナウイルス感染者であった場合、解剖中のご遺体からの体液等の飛散等により、例えば結膜などにウイルスが付着したり、汗などに付着したりして、結膜や口腔等を通して感染する可能性がないとは限らないこと（その場合、感染した基礎疾患がない「個体」によって、重症化する者がいること）。
- * 患者が無症候感染者で臨床的にも感染を疑わず、PCR検査をせずに病理解剖を行った場合、病理解剖を執刀した病理医、検査技師、立ち会った臨床医の中で、複数の有症状者が出た場合には病理解剖での感染が否定できず、病理部門全体があるいは担当の診療科が閉鎖になる可能性があること（潜伏期間約5日から約14日あるため、無症状で出勤し、その後症状が出て、感染が判明した場合に、判明した時点で部門全体が濃厚接触者扱いになる可能性がある）。その場合、病理部門は病院の多くの診療科に関係する部門であり、病院の病理機能が2週間なり損なわれてしまう危険性があること（術中迅速診断、病理組織診断、細胞診断ができなくなる可能性があること）。
- * すでに入院患者に対して、お見舞いの禁止など外部との接触を断っている医療機関もありますが、院内感染では無症候感染の医療者から患者への感染も確認されていること（外部との接触を避けていても感染していない無症候感染になっていることが否定できないこと）。

以上

- * 1人病理医病院等で、病理医等が濃厚接触者となり自宅待機等になった場合、病院内の病理診断が滞らないように、平成30年診療報酬改定で新たに収載された「ICTを活用した自宅等での病理診断」に関して、特例措置として規制緩和を厚生労働省に要望しております（2020年4月9日）。

http://pathology.or.jp/news/20200427_2-3.pdf

4月27日時点では、まだ回答をいただいておりますが、回答が得られましたら周知いたします。

- * 術中迅速診断検体、病理組織検体の未固定検体、細胞診検体などの感染防止対策については、前述（6. 新型コロナウイルス感染等、病理検体取扱いについて）をご覧ください。なお、「パンデミック発生状況下における病理検体（組織・細胞）の取り扱い：CAPの指針（日本語訳）」を日本病理学会 元理事長 長村義之先生よりご提供いただきました。こちらもご参考にしてください。

http://pathology.or.jp/news/200427_2_cap.pdf

ご質問、ご意見等は日本病理学会事務局まで、メールにてお願いいたします。 jsp-admin@umin.ac.jp

大変に恐縮ですが、現在、日本病理学会事務局は政府および東京都の方針に従い、原則テレワークとさせていただいております。電話での対応はお受けいたしかねますので、ご了解の程お願いいたします。

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/iryou-gyoumu/20200427.html>

8. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました

井上 清美 功労会員（令和2年3月17日ご逝去）

お知らせ

1. 2020年度「内藤記念科学振興賞」候補者推薦、「同海外学者招聘助成金」申請、「同講演助成金」申請について

本学会からの推薦を希望される方は、下記より財団の要綱を参照の上、各締切期日1ヶ月前までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

参照 HP: <https://www.naito-f.or.jp/jp/index.php>

お問い合わせ:

(公財) 内藤記念科学振興財団

〒113-0033 東京都文京区本郷3-42-6 NKDビル8階

TEL: 03-3813-3005 FAX: 03-3811-2917

E-mail: naitofound@naito-f.or.jp

2. 公益財団法人 島津科学技術振興財団より

(1) 2020 年度島津賞について

本学会からの推薦を希望される方は、下記ホームページより詳細を確認の上、6 月末日までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

(2) 2020 年度公益財団法人島津科学技術振興財団研究開発助成について

申請締切：2020 年 7 月 31 日

(3) 2020 年度島津奨励賞

本学会からの推薦を希望される方は、下記ホームページより詳細を確認の上、6 月末日までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

参照 HP：<https://www.shimadzu.co.jp/ssf/>

お問い合わせ：

公益財団法人 島津科学技術振興財団 事務局

〒604-8445 京都市中京区西ノ京徳大寺町 1 番地

TEL：075-823-3240 FAX：075-823-3241

E-mail：ssf@zaidan.shimadzu.co.jp

4. 2021-22 年開催「藤原セミナー」援助対象募集について

標記の件につきまして、詳しくはホームページをご確認ください。

参照 HP：<http://www.fujizai.or.jp>

お問い合わせ：(公財)藤原科学財団

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-7-12

TEL：03-3561-7736 FAX：03-3561-7860

5. 2020 年度「日本医師会医学賞」ならびに「日本医師会医学研究奨励賞」について

標記の件につき本学会からの推薦を希望される会員は、日本医師会ホームページより要項を参照の上、6 月 1 日までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

参照 HP：<https://www.med.or.jp/etc/igakusyo/>

6. 第 18 回 SGH 特別賞候補者の推薦について

標記の件につき本学会からの推薦を希望される会員は、下記ホームページより要項を参照の上、6 月 1 日までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

参照 HP：<https://www.sgh-foundation.or.jp/gan/award.html>

お問い合わせ：公益財団法人 SGH 財団

〒600-8009

京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 79

ヤサカ四条烏丸ビル 9 階

TEL：075-255-9310 FAX：075-255-9311

E-mail：info@sgh-foundation.or.jp

7. 第 18 回オートプシー・イメージング学会学術総会

会期：2020 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）

会場：京都市 島津製作所本社・本館 1 階大ホール

参照 HP：<https://acjsai2020.org/>



2020 年 IAP 日本支部 病理学教育セミナーのお知らせ

IAP 日本支部主催 日本病理学会後援

日 時：2020 年 11 月 14 日（土）

会 場：アクトシティ浜松（〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町 111-1）

● 病理診断講習会 9:00~11:45

主題 「乳腺の病理 最近の話題」

1. 【緒言】「乳癌組織分類の要点」 森谷卓也（川崎医科大学病理学）
2. 【教育講演 1】「乳腺疾患鑑別の要点：免疫組織化学を含めて」 小塚祐司（三重大学付属病院病理診断科）
3. 【教育講演 2】「乳癌の多様性：治療をふまえた分子生物学的アプローチ」 鹿股直樹（聖路加国際病院病理診断科）

● スライドセミナー 13:00~15:00 / 15:15~17:15

*New! 食道胃接合部・胃・十二指腸の病理 河内洋（がん研究会有明病院 臨床病理センター 病理部）

*New! 乳腺の病理 森谷鈴子（滋賀医科大学附属病院 病理部）

*New! 肝の病理（非腫瘍および腫瘍）原田憲一（金沢大学医薬保健研究域医学系人体病理）

*New! 脾の病理（非腫瘍および腫瘍）能登原憲司（倉敷中央病院病理診断科）

○子宮腫瘍 三上芳喜（熊本大学医学部附属病院 病理診断科）

○腎腫瘍 黒田直人（高知赤十字病院 病理診断科）

#皮膚の腫瘍性疾患 新井栄一（埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科）

#骨髄病理の基礎と診断 伊藤雅文（名古屋第一赤十字病院 病理部）

*印は新規コース，#印は今回で終了するコース

【参加方法】IAP 日本支部ホームページにてオンライン登録。詳細は 7 月ごろ IAP 日本支部 ホームページ <http://www.iapiapan.org> に掲載予定です。午前の病理診断講習会，午後のスライドセミナーともに，**事前の申し込みと受講料の振り込みが必要です。会場での申込み・支払いは一切受け付けません**のでご注意ください。

【資格更新単位】専門医更新単位は，午前中の診断講習会では教育講演 1, 2 が各 1 単位で合計 2 単位，午後のセミナーでは各コース 2 単位の取得が可能です。

【受講料（1 コース）】

	一般会員	ジュニア会員	シニア会員	非会員
病理診断講習会	5,000 円	3,000 円	無料	8,000 円
スライドセミナー（1 コース）	10,000 円	5,000 円	10,000 円	15,000 円

【問い合わせ先】

IAP 日本支部 教育委員長 清川貴子（東京慈恵会医科大学病理学講座）

Email: iap-japan@jikei.ac.jp（事務担当 桜井）

Tel: 03-5400-0700 内線 2231

IAP 日本支部東京事務局 松原 修，大谷 茉莉

E-mail: tokyo.office@iapjapan.org

Tel: 050-5274-8683

【IAP 日本支部入会について】

IAP 日本支部会員になると，病理学教育セミナーの会員割引（上記をご参照ください），USCAP 雑誌の会員価格での定期購読などの特典があります。詳細は IAP 日本支部のホームページをご覧ください。入会申し込みも同ホームページ上からできます。

IAP 日本支部のホームページ：<http://www.iapjapan.org>